

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	平成・南部藩事業			事業コード	43
所属コード	123000	課等名	企画調整課	係名	政策調整係
課長名	古舘 和好	担当者名	佐々木 努	内線番号	3813
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	心つながる相互理解	コード	3
	施策	多様な国際交流・地域間交流の推進	コード	3
	基本事業	地域間連携の推進	コード	2
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 6 目 南部首長会議事務 (001-03)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 59 年度
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

南部氏にゆかりのある山梨県・青森県・岩手県の 9 市町が，地域づくり成果報告会のほか各種事業を開催し，文化・経済の交流を通じて相互理解を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 59 年に相互の地域振興を図るべく遠野市長から提案があり，南部氏にゆかりのある 7 市町を構成として第 1 回南部サミットを八戸市において開催したことに始まる。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 18 年度に事業の見直しを行い，平成 19 年度から新規事業等を実施しているところであり，その結果を勘案して今後に反映させることとしている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

南部氏にゆかりのある9市町（青森県八戸市，三戸町，七戸町，南部町，岩手県盛岡市，遠野市，二戸市，山梨県南部町，身延町）

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
A 南部氏にゆかりのある市町村数	団体	9	9	9	9	9
B						
C						

（3）26年度に実施した主な活動・手順

ア 地域づくり成果報告会（青森県八戸市において開催。盛岡藩と八戸藩についての講和，お互いの市町の地域づくりについて現状を発表しあい，今後の地域活性化に役立てた。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
A 市が関わるイベント等の事業数	件	2	1	3	1	1
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

文化交流等を通じ，相互の地域の特性をいかした連携・交流を図り，地域振興に寄与する。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
A 市が関わった会議の時間数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	時間	3	2	2	2	2
B 市が関わったサブイベント等の時間数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	時間	10	10	30	10	10
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	132	15	247	41	32
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	132	15	247	41	32
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	190	100	120	100	100
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	760	400	480	400	400
計	トータルコスト A+B	千円	892	415	727	441	432
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

構成団体間において相互の特性をいかした連携・交流事業を通じて地域振興を図っていることから、結果として結びついている。

② 市の関与の妥当性

住民を含む自治体間の連携交流により地域振興に寄与していることから、妥当である。

③ 対象の妥当性

「南部氏にゆかりのあるまち」というテーマであることから、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

20 年以上にわたる交流の歴史があること、また、東日本大震災時には当事業の構成市町同士相互支援が行われ、自治体間連携にも寄与していることから、廃止・休止により長年積み重ねた連携が減退する。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

3 年に一度、担当課長が出席する企画会議を開催して事業の見直しを行っていることから、随時事業の見直しを図ることで向上の余地がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

自治体間で応分の負担があることから、受益機会の公平性がある。

(4) 効率性評価

事業費については、ほとんどが事務費用のため削減する余地はないが、人件費については、

構成市町による現事業体制を検証することで削減の余地がある。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	都市間交流の促進	コード	29
	小施策（推進項目）	地域間連携の推進	コード	2

（2）改革改善の方向性

現事業体制について、構成市町において定期的に検証を行う必要性があり、その結果、事業費、人件費の削減が可能か判断する。

（3）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

「南部氏ゆかり」に係る連携・交流についての理解は共有されており、また、東日本大震災による自治体間の相互援助等により、構成市町間で連携はより強まったと思われる。事業の将来の方向性について、構成市町間において共有するため、定期的な意見等の共有の場（会議）の開催や事務局への意見集約・発信を密に行うことにより、事業改善が図られると考える。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

平成 26 年度は、地域づくり成果報告会が八戸市で開催され、各構成市町の首長から、それぞれのまちづくりの取組が紹介され、多くの八戸市民が参加したことから、構成市町との交流を深める機会となった。

今後も、南部氏にゆかりのある 9 市町（青森県八戸市、三戸町、七戸町、南部町、岩手県盛岡市、遠野市、二戸市、山梨県南部町、身延町）において、市民交流や研修事業が効果的に行われるよう、毎年度の事業内容を検討していく。